



題字 廉隅 進

会長就任のご挨拶

BN
532 鈴木 正彦

この度、天野俣明前会長より「なため会」会長を引き継ぐことになりました昭和39年度卒（山久会）の鈴木正彦です。



先ず、天野前会長には、はるばる名古屋から毎回「運営委員会」を初め、各種会合にご出席いただき、本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

今年は、創部80周年の記念すべき年です。4月29日（祝）には、創部時に第1回Wが行われた武蔵・高麗村（現、日高市）の物見山へ、記念Wと高麗神社（出世稲荷）への参拝を行いました。11月には80周年の記念式典を開催する予定です。皆様方多数のご出席をお待ちしております。

第 51 号

明 治 大 学 体 育 会
ワンダーフォーゲル部
な た め 会 会 報

平成7年（1995年）谷川連峰の四大学合Wで、死亡事故が起きてから20年が経ちましたが、一年間自主体部したため新入部員が激減。その後、少しずつ回復してきましたが、今年は20名（内、女子3名）が入部したとのことです。

しかし、我々が入部した時と比べると雲泥の差があります。他に大した楽しみがなかったせいもありますが、我々は百数十名が入部入部金を払い、新人歓迎までは良かったけれど、その後のトレーニングの厳しかったこと。後で聞いた話ですが、「このままだと山に行ってもテントの数が足りない」とのこと、新人を半分に減らすための止むなき措置だったそうです。

なため会の運営は、「立案機関」である運営委員会と「審議機関」である幹事会という組織体制になってから、上手く機能していると思います。毎月1回開催される運営委員会では、監督、総務、財務、企画振興、山小屋、広報、駿台体育会、各ブロック等からの報告や、幹事会で提案する議案について熱心に討議しています。

最後になりますが、私は「楽しいなため会」であるべきと常々思っております。どうぞ、皆様の御協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

二〇一五 情断会スノーW

小浅間山&四阿山

BN
788 原田 博文

週間天気予報では土曜日は曇り、日曜日は雨マークもあり、晴れ男の神通力もここまでかと思われた今年のスノーワンデルングであったが、情断会の晴れ男は今回も奇跡を起こした。

三月十四日（土）、朝七時三十分、桶川駅に集合したのはいつもの五人、小田野、高島、宮澤、小川そして原田である。薄曇りの中をこの日のためにスタッドレスタイヤを装着した原田の車で出発。関越自動車道はスキーシーズンのためか交通量は若干多いもののスムーズに通過。上信越道を経由して碓氷軽井沢インターで一般道に降り、軽井沢の町を通り抜け、ほぼ予定の時刻に小浅間山の登山口である「峰の茶屋」に到着。何とか一台分の駐車スペースを見つけて車を止め、身支度を始める。

小浅間山（標高1,655m）は浅間山の東の裾野に、ちょこんとせり出したドーム状の寄生火山で、東西の双峰をもつ独立峰である。東峰からは軽井沢の街並みや妙義の山々などを、西峰からは鬼押出しや六里ヶ原の広がりを見望できる。登山道は駐車場の隣の東大火山観測所の横に入る。しばらくはカラマツやダケカンバ林の中の比較的平坦な道であ

るが空は青空、風もなくすぐに汗ばんでくる。火山噴火警戒のため立ち入り禁止の看板のところで、右に折れ尾根の右をトラバース気味に取り付く、ここからひと登りで小浅間山の東峰に到着。雄大な浅間山が目の前に見える。また、八ヶ岳や西上州の山、明日登る四阿山が良く見える。ひとしきり眺望を楽しんだ後は西峰に向かう。西峰からは浅間山がさらに大きく見える。何のためにあるのか分らないが、丁度良い大きさのコンクリートブロックがあつたのでそれをテーブル代わりに昼ごはんにする。風もなく、素晴らしい景色を眺めながらのんびりと食事をした後はトレースの無いルートを探しながら下山、一日目の日程は無事終了。本日の宿「東急ハーヴェストクラブ軽井沢高原」に向かう。チエックイン前のホテルのロビーでビールを飲み始め、寝るまでアルコール漬けであつたことは言うまでもない。

明けて三月十五日(日)、朝食時間を待ちかねてレストランへ。今日一日の行動に備えしっかりと食事をする。レストランから見える空はだんだん青空が広がってくる。いいぞ！また、この時に山専ボトルにお湯を満タンにしてもらう。これで昼のカップラーメンもコーヒーマもOKだ、レストランのお姉さん有難う。

予定通りホテルを八時に出発。パルコール婦恋スキー場までは約一時間の道のりだ。途中のコンビニで本日の昼食を調達して、九時

少し前に四阿山の登山口「パルコール婦恋スキー場」に到着。パトリールに登山届を出してゴンドラで一気に2,050mの山頂駅へ。四阿山の標高は2,354mだから標高差はわずか300m。この時期、この時間、この天気だから先行している登山者はいらうし、今日のコースも楽勝！と、この時点では思っていたが、現実は大違いであつた。

ゴンドラを降りて準備をしていると隣で「空色山の会」の皆さんが準備中であつた。事前の情報では「空色」の皆さんの方が先行しているはずなのだが…。出発こそ「空色」の皆さんが先であつたが、大先輩にラッセルしていただくわけにもいかず途中から「情断会」が先行することになった。天気はいいし、周りの樹氷もきれいだし、雪もフカフカだし、はじめこそルンルン気分であつたが、次第にラッセルがきつくなる。時たまあつた赤布もほとんど見当たらずなくなり、樹林帯のなかでルートファインディングをしながら前進することになった。交代でラッセルをしながらようやく2,183mピークに到着。ここからは少しなだらかになり、ノントレースの気持ちのいいコースであるが、山頂手前の急崖が見えている。尾根が狭くなつたところでスノーシューでは危険と判断し、アイゼンに履き替えるが雪が締まっていなためうまくステップが切れない。それでも何とか登り、狭いけれども比較的なだらかな尾根を注意しながら通過して山頂に到着した。ゴンドラの山



頂駅から約三時間半の行程であつた。

狭い山頂からは三六〇度の展望で、上越の山、妙高から北アルプス、中央アルプス、八ヶ岳、その奥に南アルプス。近くには去年の秋に登った黒斑山をはじめとする浅間山の外輪山、雄大な浅間山、そして昨日登った小浅間山が一望のもとであつた。いつまで見ていても飽きない景色であつた。程なく「空色」の皆さんも到着し、記念撮影を済ませて来た道を引き返す。

帰りは頂上直下の狭い尾根を除けば神経を使うところはない。風もないので広い雪原に

テーブルを作ってお昼を食べ、手ごろな斜面はシリセードで降り、雪の山を満喫した。
計画よりも多少遅れたが、午後三時にはゴンドラ山頂駅に着き、今年の充実した情断会スノーワンデリングは終了した。

日高の会のいつ

BN 558 奥倉 勇一
文責 小松 正晴

もう54年も昔のことだ。私はM大ワンゲル部員の一年生だった。4月の入学以来、新入部員歓迎合宿、新人養成合宿を終え、初めての夏合宿に臨んだ。合宿先は北海道だ。前段は班別合宿で、後半は大雪山系の東側にある化雲岳のすそ野に広がるヒサゴ沼の（平成21年トムラウシ山で発生した大量遭難事故のパーティーが2日目に宿泊した避難小屋がある）ほとりの湿原に全部員が終結するという壮大な計画だった。部員総数200名、パーティー数12班だった。人数でいえば平成27年の当クラブと同じ規模。

私の所属した一班はなんと日高山系のエサオマントツタベツ岳（1902m）を目指した。日本百名山の一つ幌尻岳の直線距離で6キロ南東に位置する山で登山道などというものは無い。なんと沢をひたすら詰めて登る以外に方法はない。したがって装備には地下足袋とワラジ10足が我がパーティーの必需品となった。

ともあれ7月26日私達は上野駅から青森に向け旅立った。日本列島全体（北海道を除く）が猛暑にうだっている夏だった。青森駅から青函連絡船に乗り換え4時間の船旅の末、生まれて初めて北海道の地を踏んだのは27日の事だった。随分涼しいんだというのが第一印象だった。函館本線、日高線と乗り継ぎ静内駅に着いたのは28日の午後2時近く。バスで行ける所まで行き、あとは電源開発工事現場（当時は水力発電所の建設が急ピッチで進んでいる時代）へ向かうダンプをつかまえてきただけ奥へというのが当方の目論見。運よく2台のダンプを乗り継いで初日の幕営地に到着し、北海道での一泊目。

さあ日高の核心部へ向かう

翌29日、いよいよ山登りが始まる。何せ登山道などない山ひたすら札内川を遡り上を目指すしかない。過去にはわずかに3〜4校の記録が残っているくらい。しかも地形図は今と違い五万分之一の地図しかない時代。ある意味ではドイツから伝わったワンダーフォーゲル活動（直訳すると渡り鳥）の原点ともいえる行動だったと思える。テントを撤収して歩き始めはしばらく杣道があったが、それも消えたところからいよいよ地下足袋にワラジを付け沢歩きが始まった。冷たい、とてもなく冷たい。2000m弱の頂上直下には本州なら3000m級の山にしかない氷河の痕跡、カールがあり、万年雪からの融雪水が流れ込

んでいるのだ。いくつもの沢の出合を通過するたび、3年生がルート探索に出る。そのたびに小休止、やれやれだ。沢の中なので夏とはいえ日の落ちるのが早い。早く今日の幕営地に着かなければいけないのだが、沢筋しか歩けないのでだんだんあせりが出てくる。ようやくテントが3張り位張れる河原に到着し今日の行動は終了。翌日もひたすら上部を目指して沢を遡る。上がるにつれて沢が深く急峻になり尾根に高巻きをする場面が多くなってきた。日高山脈は大雪山系と違って山自体が若いため谷は急峻になり稜線は尖った細い山容になるのだそうだ。3日目ようやくカールの下端にたどり着く。歴然たるヒグマの生息地、糞や足跡、草をかんだ後が生息しい。我々がヒグマの生息地に入り込んだのだと心底思えた。炊事用の薪の調達も単独ではやばいので必ず二人ひと組でホイッスルをならしながらの行動だ。がさつと音がするたび身構える。翌日カール脇の稜線を数こぎしながら、エサオマントツタベツ岳のピークを踏む。といっても標識が設置されているわけでもなく地図とコンパスでの確認だ。さあここからは戸蔭別川に向かってひたすら下り帯広へ向かう。しかし2〜3日まえから班の首脳部は台風の接近をつかんでいた。午後4時の気象通報をもとに天気図を作り、北海道地方に台風が上陸するというのだ。それによると2日後には北海道を横断する気配という。山稜にいるのはやばい、早く下へのイーリダー

の指示を受け3年生のKさん、Sさんがルート探索に、30分ほどでテントに戻った二人は震えている。リーダーがどうしたと聞くと熊が、という。うそ、彼らが指さす方向にカールの中腹の雪田に熊が3頭、母熊と小熊2頭だ。幸い我々の今いる場所は熊からは風下だ、急いで樹林の中を下るところに熊の糞、草をかんだ穴が点在する。2時間ほどで沢筋に下りた。なんとかテントが2張り確保できるスペースを見つけテントを張る。私達一年生が炊事にかかっている頃、上級生たちは小枝に糸と針をつけ水面に、するとすぐに岩魚が釣れ出す。人が入る山ではないので警戒心がないらしい。面白いように釣れた岩魚達はその日の絶好のおかずになった。

さあ台風が来るぞ

午後4時の気象通報によると台風は熱帯低気圧に変わったが、勢力は強いまま北海道に向かってくる。しかも速度を速めこちらにちかづくのは明朝未明という。夕食の後ザックをパッキングするよう指示が出る、いつでも待避できるようにとの配慮だ。3年生はザイルを山の斜面に張り、待避用ルートを確保する。2年生はテントサイトの沢の水位の変化を記録している。9時過ぎころから雨が強くなり始める。除々に水位も上がり出す。するとリーダーから、待避しろ、の号令がかかる。あらかじめ山の斜面に張ったザイルを頼りに斜面に這い上がる。ザックを尻の

下に置きテントをかぶって時の過ぎるの待つのみ。笹の上にのっているのだから下に向かって滑る。雨は益々強くなってきた。ちょうど頭の上を熱低が通過しているのか。するとテントサイトの方角で岩が流される音が響き出した。ごろんごろん、ガラン、どっしーん。岩がこちらに飛んでくるのではない、生きた心地がしない。時間が止まったような感じ。ようやく朝になり日差し始めテントサイトに下りてみた。びっくり仰天とはこのことか、テントサイトの周りにあつた巨岩が残っていたのだ。集中豪雨で鉄砲水が発生したのだろう。山の斜面で聞いた音はそれだったのだ。

一日そこで停滞し濡れた衣服、テントなどを日に干し、翌日戸蔭別川を目指しての沢下りが始まった。下流に下りるにつれ水量が増えてきた。それはそうだ。山に降った雨はみな沢に集まり下流に向かうわけだから。普段なら河の真ん中くらいを流れているのである。戸蔭別川が川幅いっぱいに流れている。しかもゴロンゴロン石、いや岩が流されている。ようやく流失を免れたコンクリート製の戸蔭別橋に到達した。その時の写真がある。まるで乞食の群れのような格好だ。すでに合同合宿地化雲岳山麓ヒサゴ沼への集合予定を3日は過ぎていた。もっともこの台風崩れの熱低影響で北海道の道路網、鉄道網はずたずたの状態となっていた。さらに我々は苦難の道程を歩くことになるのだがそれは又別稿という

ことで。

日高の会の発足は偶然の産物だった

では何故日高の会ができたのかに言及したい。今を去ること25年ほど前、文中に登場するリーダーさんと当時3年のSさんがぼったり電車の中で行きあつたのだそう。しかも二人は偶然にも同じ市の同じ区に住んでいたのだ。ただ彼らは卒業後全国を飛び回るサラリーマンとなり、接点は途絶えていたのだ。二人は懐かしさのあまり下車した駅で居酒屋に飛び込み、よもやま話に花を咲かせたのだそう。そのときの副産物で日高の会は誕生した。私が同輩のI氏から電話を受け取ったのは父親を亡くして間もなくのことだったように記憶している。I氏から日高と聞いたとたん30年も前の事が昨日のように思い出され、すぐさま参加の意思表示をしたことを覚えている。そして最初の会が東京・蒲田で開催された。30年振りとはいえ全員の顔と名前は即座に一致した。以来毎年11月の2週目の日月、一泊での懇親旅行を続けている。東京や近県に住むメンバーを私の同輩のK氏がワゴン車をレンタルして連れてくる。私は新潟から、当時サブリナーのH氏は仙台から馳せ参じるというわけだ。当時日高に入ったのは4年生2名、3年生2名、2年生2名、そして私達1年生6名の計12名。その内日高の会がスタートする時に拒否して加わらなかったのが1名いたので11名での発足だった。残念なが

ら途中で1名が病死したので10名となったのだが、別稿で述べる予定の当班から後半の合宿地へのボツカ隊に参加していた2年生のMさんが加わるようになった。当時のメンバーが北海道合宿の終了後、会を創って毎年会っているというのは他のパーテーではないそうで大層うらやましがられているらしい。

今にして思うのだが、当時私は18歳、最年長の4年生は21、2歳である。状況からいえば遭難しているといつて過言ではないのだろう。たどりダー、サブリーダーの状況判断が優れており、パーテーの構成員がよくメンバーシップを発揮できたことが全員無事に下山することにつながったのだ。もし我々の中で誰かが増水した沢で足を滑らせて（そのような場面はいくらでもあった。我々の道は沢にしかなかったのだから）流れにのまれ死亡したりしていたら、4年生は刑事罰を免れない年齢だ。現にわが校の8班が幌尻の近辺に居た。我々と同じように台風崩れの熱低の影響の雨の洗礼を受けていたのだ。彼らは人的被害はなかったもののテントや登山靴を流される被害を受けていた。この時期夏場の北海道には全国や北海道の高校、大学のワングル、山岳部員達の集うところとなり、数千の岳人ワンダラーがひしめいていたのだ。まか不思議なことにその中から死者は一人も出なかった。まさにあの時山にいたリーダー達が卓越した指導力を発揮したから危機を回避できたのだと思う。今のようには2万5千分の1の地

形図が（当時は5万分の1）あるわけではなく、気象予報なども、現代のような便利な機器や通信手段もない時代の状況からいえば奇跡といつてもいいのではなからうか。テント地やザック地はズック、着るものも上はサージや綿、汗とり用の網シャツなんかもあった。そうそうテントの支柱は良くてアルミ、なかには鉄製のものまであった。雨具はゴアテックスなんて機能性のあるものはなくポンチョかゴム引きのもの、雨じゃ濡れていこう、的なものだった。今を去ること54年も昔の事だ。ではまた。

シルクロード 天山北路

「北新疆」草原の旅(その二)

BN 299 大内 善一

〇五日目

二〇一四年六月四日（水）

午前 カナス湖月亮湾・臥龍湾撮影

午後 ・布爾津・五彩灘の夕景撮影

神仙湾・月亮湾・臥龍湾を廻り、瑠璃色の水を眺めながら、それぞれの絶景を撮影、中国人の若い女性がにぎやかに写真を撮り合っている。また「中国民族撮影隊」と書いたチョッキを着ている団体も居られた。

近くの小学校の門標はモンゴル語と中国語の表札がかかげられていて子供たちが校庭で遊んでいた。

カナス湖を下りると牧草地帯となり羊や馬の放牧地が広がり、バオが沢山見かけられ、ゆっくりとたくみに騎士が草原を求めて誘導している。

道路を横断する大羊群にしばしバスが進められず。緑が多い樹木の間から川が流れ、雪のある山を眺めながら行くと布爾津（ブルチエン）の町にでてその郊外にある、今日のハイライト五彩灘に着く。五彩灘は額爾齊斯



五彩灘

(アルチス) 河沿いのヤルダン地形(風や水によつて侵食・風化された岩砂漠)が独特な景観を創り出している。

五彩灘は、夕日に照らされた頃には、更に岩々が赤く燃え上るような絶景になる。入口に料金所があり、中に入ると土産物や屋台が並んでいる。私達は夕日待ちをし、撮影に専念し五時閉門ぎりぎりまでねばり写し終え、今夜の宿布爾津神湖大酒店に戻り、夕食は街の食堂に行き中華料理のコースで痛飲する。

○六日目

二〇一四年六月五日(木)

午前 布爾津 自由行動

午後 吉木乃草原 右城或神秘大溪谷

オルジス河周辺等の撮影

吉木乃草原には羊の群が多く、バオも沢山散在し、騎士が道路を横切る群を巧みに誘導している。

昼食は街道筋に並ぶ食堂に陣取り、手延べ麺が、先づは水と塩と小麦粉を練り合せグルテンを引き出すことで麺の形状をつくる。その生地を細長くまとめ、両手で広げ、それを右端と左端を合わせ、また伸ばす。そのくり返してどんどん細くなり、ゆで上げるとツルツルモチモチとした食感となる。具材は野菜とブタ肉をいためたものが乗る。汁入りと炒めの二種類があり、いづれも量が多い。

雪の残る山々を眺めながら砂礫の街道を走る。白い低いコンクリ塀の中にコンクリの家

の集落があり、やがて石城或神秘大溪が延々と巨龍のようにつづく。ここを流れるオルジス河は中国で唯一の北氷洋に流入する。しかしすっかり乾燥しきつて水は流れていなかった。その干し切った溪谷はそれはそれで写真のいい風景であった。

○七日目

二〇一四年六月六日(金)

午前 吉木乃 魔鬼城

午後 カラマイ油田 カラマイ市へ

シルクロードのバザールで、最初に目にするのはナン。ナンは大きな底のない窯の中にはりつけて焼くパンのことで、ウイグル族の主食である。ポピュラーなものは円い二十センチぐらいの大きさで、小麦粉の素材そのものの味、玉子や牛乳入りのものは少し小さく、焼き色もきつね色で紋様の模様が付いている。又肉入りの小さなものもあり、素材がとうもろこしのものもある。薪で焼いたものがやはりうまい。

そのようなナンを仕入れ、奇妙な岩峰が群れなしている「魔鬼城」に行く。その「魔鬼城」は大規模な地殻変動により大地が隆起し、湖の水が干し上り、長い年月を経て形成されたものである。

その中に小さな汽車で一週する観光コースがあり、途中の休けい時間にラクダに乗って廻ることができる。中国の観光客が嬉しそうに笑っていた。勿論すべて有料である。

カラマイ油田に行くと油田を一週するコースもあり、漆黒の油田が散在し、のぞくと自分の姿がくつきりと浮かぶ。採油用の機械も大きなものが散在し作動していた。

カラマイ市に戻り市場に行き、野菜や唐辛子、衣類、食品何でも小さな店がひしめき合っている。干ブドウや干あんずを購入する。

夜は屋台が並ぶ一画に行き、野菜・魚・豚肉・羊肉を選び焼いたり煮たりしてもらう。

シシカバブ一串に十切れぐらいの羊肉は二本で腹一杯になる。冷えたビールで乾杯あとは持ち込んだ紹興酒で楽しむ。

○八日目

二〇一四年六月七日(土)

午前 カラマイ市・圭屯市 精河市

午後 博楽市 怪石峪 横楽市

朝ホテルの近くの公園では太極拳をラジオに合わせてやっている人、剣をふりまわしている人、太い紐で遊んでいる人、みんな健康に気を付けているようだ。

また若者が自家用車を六台ぐらい今日の結婚式のためにいろいろな装飾をしていた。

圭屯市と枸杞の産地の精河市に行きカザフ共和国に近い飛行場の見えるところに駐車し、キャビアやロシア人形等売っている市場で、買物をする。

飛行機から降ろした貨物を運ぶ人達でにぎわっていた。

畑のある緑の中に散水されているところを

過ぎるとゴビの世界に、途中民家が散見され怪石溝に着く。ここから小型のバスに乗りかえ怪石峪の一番奥まで上る。

新疆ボレアラタウ丘陵地の岩の溪谷、五億年前には海底であったのが隆起し、その後風化し凹凸のある奇石群となった。一二〇平方キロに及び奇石の坂を登り、尾根筋を歩き下すると土産物屋が並んでいて石の細工物を売っていた。

途中休けいした所にトラック三台分ぐらい長いトラックが駐車していた。そこで途中仕入れた西瓜をたらふくいただいた。

〇九日目

二〇一四年六月八日(日)

午前 博楽^{ハルホフ}↓セリム湖↓ホルゴス口岸
午後 清水鎮六五団ラベンダー畑↓伊寧^{イニン}

山坂道を上り峠に登り、右手に雪山が見えやがてセリム湖に着く。今日は日曜日とあって花嫁衣裳の新婚さん三組が湖と放馬をバックにビデオを廻したり写真撮影のほほえましい風景が見られた。

セリム湖は、モンゴル語&カザフ語で「サイラム・ノール」といい「幸福の湖」という意味のあること知り、新婚たちのメツカであったのである。標高二〇七三m、周囲一〇km、面積四五八平方kmという大きな湖である。ホルゴス口岸には、草原散策の乗馬がおりしつこく乗馬をすすめる、中国人の観光客のみ嬉々として乗馬していた。

ジグザクの急坂を長い時間かけて下ると谷底のようなところに小川があり、道路の両側は畑、そこをすぎるとラベンダー畑になる。畑の持主が、ラベンダーの乾燥したものやラベンダー入り枕、油、石けん等をリヤカーに積んで売っている。

それらを購入すると無料で畑に入ることができる。

見渡す限りのラベンダー畑は絶景であった。伊寧の街に入ると、この町はかつてソ連との貿易の窓口であったことから「スターリンロード」という道があり、街に入る前には交通検問所があり、警官がバスに乗り込み、パスポートにより確認し通過させる。

現地の人達は、車から下車し別の所で確認され、自動車の中や荷台が検査を受けていた。各地で同じような検査があった。

〇一〇日目

二〇一四年六月九日(月)

午前 伊寧↓トゥグルク・ティムール廟
午後 カラチン草原(世界遺産)

伊寧は南に天山山脈、北にコルギルチャン、ボロボロ両山脈に挟まれ、降水量が多く緑地が多く、中央を流れるイリ河の北岸にあり、ウイグル、カザフ、シボなどの民族が居住し農業が盛んである。

十八世紀清代は、帝政ロシアの辺境防衛の拠点でもあった。

カザフ共和国の近くに、モグリスタン・

ハン国の建国者トゥグルク・ティムールとその夫人が眠る廟がある。廟の入口で入場料を払い中に入ると女性の説明があり、石さんが通訳し説明してくれる。

トゥグルク・ティムールは一三世紀頃の人でチンギス・ハンの第二子の子孫といわれ、同国を建国、新疆地区で初めてイスラム教を信奉する国王となった。廟は新疆の最古のイスラム建築様式となっている。

廟を囲む土塼は荒れていたが、中央の大きな廟の外壁面は鮮やかな瑠璃色の瓦で幾何学模様美しく張られていたが、下部の方は剥落しがひどかった。

その左側には彩色されていない少し小さな廟が質素に建てられ、双方の廟内に入ることにはできないが覗くことはできる。白い祭壇の上に何か積まれていて、それを朱の布でおおい、次に青色の布、その上に緑色の布が三重にかぶされ、刺しゅうもあざやかにされていた。

富士山と一緒に昨年世界遺産に登録されたカラチン草原は、カナス湖と並ぶ観光地として人気が高く、中国全土から訪れるという。

バスは、大草原の入場門までで、入場料を払い専用バスで大草原の一番高いところまで坂道を登って行く。途中針葉樹の森やカザフ族が住むバオが点在している。草原の中頃には牧舎があり男たちが柵を修理していた。

高原の上の方に小川がありカザフ族のバオ

が三張建つていて、小さな男の子が父親にまわりついていた。

山上の美しい草原は、古代天馬（駿馬）を産した烏孫国の地といわれ、数多くの馬や羊が放牧されていた。

山上から中程の牧舎まで歩いて下り、美しい空と雲から夕虹が草原を囲むように突然現われ、一斉にシャッターが切られた。

伊寧に暗くなつて戻り、また街の食堂に行き餃子やわんたん麺を堪能した。

○十一日目

二〇一四年六月十日（火）

終日 伊寧市内旧市街散策

伊寧市はカザフ共和国に近く、ウイグル族の人々はウイグル帽をかぶった鬚面のおじさんや、カラフルなスカーフをした碧眼の女性たちが町を闊歩したりバイクで疾走している。旧市内に行くと建物ががらりと変わり、立派なモスクが建てられており。周辺の住宅もイスラム風で、立派に彩色された玄関、頑丈な鍵、覗くとそこに葡萄棚があり、たわわに実っていた。

自動車で野菜や食材を売る男、バイクにトイレットペーパーを沢山積んで売る女性、ナンを焼く壺を作っているところ、街角でトラップに興ずる老人たち、馬具を売っている店の近くでは観光用トテ馬車が並んでいた。

○十二日目

二〇一四年六月十一日（水）

午前 烏蘇市・ウルムチ

午後 ウルムチ 新疆ウイグル自治区博物館

一路烏蘇市のホテルを早立ちしてウルムチに、ウルムチは世界で最も内陸に位置する都市で、省としては中国最大の面積を持つ新疆ウイグル自治区の首府で、同自治区の政治・経済・文化の中心地、高層ビルが建つ近代的城市で、四十二の民族が暮らしている。

シルクロードの情緒たつぷりの国際大バザールの建物があり、その背後には大きな塔をもつモスクの堂があり、四本の高い塔が立つており、大バザールの中には、一々二階びつしり、いろいろな店が並び喧噪を極めていた。

新疆ウイグル自治区博物館内は、撮影OKで、一九〇〇年代スウェーデンのスウェン・ヘデンが、かつて城郭だった廃墟を発見。それが楼蘭の遺跡であることが判明し、おびただしい織物や土器、家具といった遺物のほか、墓地群から若い女性のミイラを発見、「楼蘭の王女」と名付けられたミイラ。その他いろいろな人種のミイラ等も含め、現在そこに住む多種多様な民族の人形・生活用品・パオ等網羅されていた。

入口の売店では、交易で莫大な利潤をもたらした特産物の絹織物や、漢族が古くから崇めてきた「玉」製品を販売している。

「玉」は純白なものが尊重され、古代より

魔除とされ、崑崙山脈に産したものが川に流れ、それを採取したものが販売されている。しかし近年採取量が減少し高価となっている。日本でも大谷光瑞西本願寺第二十一世が、一九〇二年、一九〇八年、一九二〇年と三次に渡る探検隊を組織し遠征、その成果は、「大谷文書」と称され、収集された伝古典・古文書・壁画・ミイラ等多岐にわたるものが、現在東京博物館と龍谷ミュージアムに収蔵されている。

この夜は町の中華料理店のフルコースで、団員で元読売新聞写真部長立林映二氏の誕生日で、みんなで誕生日の歌を合唱、立林氏に赤い帽子をかぶらせ、お祝いのケーキに入刀していただく楽しいパーティーになり、お別れ会ともなったことでした。

○十三日目

二〇一四年六月十二日（木）

ウルムチ空港で、厳重な入国審査があり、うっかりキャビアや蜂蜜を手荷物にしていたため没収される者もいたが無事通関十時十分ウルムチ空港を発ち北京空港に十三時三十分に着き、重ねて入国審査があり、北京空港一七時十分発羽田行の出発が遅れ、羽田空港に二十三時着き、自宅の船橋市北習志野行の最終電車に間にあい、午前一時無事帰ることができた。

平成26年度 卒業生 歓送迎会

■日 時 平成27年3月7日(土) 12時00分～14時30分

■場 所 リバティタワー23F 岸本・宮城ホール

■式次第(敬称略)

12:00 開 会

部長先生挨拶

なため会会長挨拶

監督挨拶

送 辞

答 辞

バックル授与

12:30 乾 杯

祝 宴

写真撮影

校歌斉唱

14:30 閉 会

■出席者：84名

●卒業生：14名

1282 諏訪部貴亮	1283 鈴木 優花	1284 馬場 隆彰	1285 荒澤 裕司	1286 鈴木 竜一	1287 内山 嘉穂
1288 田口 和昌	1289 上出 稜	1290 鴨志田岳大	1291 渡辺 千佳	1292 中沢 公大	1293 勝田 三月
1294 眞野 祐輔	1295 山崎 友也				

●なため会会員：37名

157 中村 輝雄	181 新村 貞男	186 田中與一郎	339 足立 康弘	393 植木 正子	451 山田 洋二
455 飯村 朋罔	477 天野 俣明	489 野村 司	494 木島 敏夫	495 深田 裕弘	501 前田 芳弘
505 椎橋 稔	610 石田 正	661 大賀 徹雄	717 住田 孔一	728 横尾 廣志	751 諏訪本充弘
764 高橋 寿子	775 小田野義之	788 原田 博文	792 柳川 俊泰	817 和賀井英雄	835 猪狩 稔
859 丸山 貞二	871 平田 正博	888 関口 健二	897 山下 仁志	1005 原 宏	1006 安部 好洋
1065 斉藤 宏	1174 尾崎 剛史	1263 越川 真人	1264 安田 光輝	1275 渡邊 弘樹	1276 西村 怜
2120 鈴木 元典					

●現役：33名

4年 宇津木俊亮	4年 白井 真彦	4年 野村 啓悟	4年 本行 優生	4年 前川 晃慶	4年 増田 拓也
4年 望月健太郎	3年 池田 将太	3年 今井 悠貴	3年 近藤 諒生	3年 佐藤 光時	3年 神内 亜実
3年 高橋辰之介	3年 永田 真帆	3年 松田彩友美	3年 由水 雅也	2年 青木 晃胤	2年 荒木 清香
2年 伊藤 嘉音	2年 乾 真規	2年 落合 祐太	2年 白井 聡馬	2年 茅野 真	2年 塚本 惇
2年 二宮竣之輔	2年 野神 宏太	2年 富士 嶺	2年 松井 遥奈	2年 水本 ケン	2年 宮入 浩
2年 村上 彪馬	2年 森下 立基	2年 山本 新大			



卒業生送別会&なため会

歓迎会潜入記

BN 888 関口 健二

湘南生活（イイ響きだ）も早10ヶ月。大人の「武蔵國再寝食」は何かと愉しい。さて今日は卒業生送別&なため会歓迎会に極秘潜入。

記念館に入るのは佐藤伊企画の「東京半日ツアー」以来。エレベーターで23階へ。

受付に平田871さん。受付に立つ姿は相変わらず日本一だなあ。惚れ直す。

「いらつしやいませ」

「平田さん、こんにちは。関口です」

「おーおー！せえー・き・ぐ・ちいー」と、いきなり両手で頭をホールドされ前後にシェイクされて目が廻る。

『わあー、本物の平田さんだ』

何故か凄く嬉しい。みんなもお願ひしてシェイクして貰えー。『♪あったかいんだからあー♪』

同期では山下が来るって言うてたが初参加&OB会も不義理なので知っているお顔は当然無し。会場を見渡すが自分の卒業時が全く思い出せない。親戚廻りしてて、武道館行ったら卒業式が終わってた記憶しか無い。

『おっ、監督さんだ』

「諏訪本監督、能登の夏合宿にお邪魔しました関口です」

「おー、よく来てくれたね」

昨年夏のベースキャンプが石川県能登半島七尾だったので、それに合わせて夏休みを取り単身赴任先（藤沢）から戻り入幕式に参加それが縁で本日の卒業生歓迎会への参加と相成った。でも主務さん以外の名前（娘と同じ名前だったので）も顔も覚えていない。

山下と会話するちよいとダンディな方あり。会話途切れにネーム確認すると『丸山貞二』と書いてある。

『えっ？うっそー！丸山859さん？あの丸山さん？えらく垢抜けたなあ』

「丸山さん、関口です。ご無沙汰してます」

「おー！関口いー！」

頭をホールドされないよう、思わずガード。

「変わらないなあ」

相変わらず鋭い。この歳になっても昔からのアホが治らんのです。聞けばフルマラソン3時間半で走り切られるとか。フルマラソンって「普通6時間半」の話ではなかったろうか。

ポツポツと繋がりある方々とも会話し、あつという間の3時間。「立山に集う会」で毎度すれ違いの新村先輩にも初めてご挨拶させて頂きました。おっと！宝塚のトップスターにも挨拶しておかねば。吉田修先輩のご縁で「立山に集う会」にてご一緒した植木393さんと高橋764さんに挟まれて記念写真。「濡れ手に粟」ではなくて「両手に花」だ。幸せえー。元主務の鈴木1283さんともツーショット。



植木OG、高橋OGとスリーショット

『ついに「モテ期」がやって来た』と言わんばかりに満面の笑顔で女子と写真を撮り、久々の青春を満喫する関口なのであります。諸先輩に背中を押され6年前から再開した山行だが改めて先輩方には感謝。

平成27年度 幹事会・会員総会

■日 時 平成27年5月17日(日) 12時00分～14時30分

■場 所 リバティタワー23F 岸本・宮城ホール

■式次第(敬称略)

12:00 幹事会 幹事長挨拶

一、審議事項

- (一) 平成二十六年度事業報告
・原案通り承認されました。
- (二) 平成二十六年度決算報告
・原案通り承認されました。
- (三) 平成二十六年度監査報告
・原案通り承認されました。
- (四) 平成二十七年度組織案
・原案通り承認されました。
- (五) 平成二十七年度なため会規約改定案
・原案通り承認されました。
- (六) 平成二十七年度事業計画案
・原案通り承認されました。
- (七) 平成二十七年度予算案
・原案通り承認されました。

横尾幹事長報告

柳川財務部長報告

池田監事報告

横尾幹事長説明

横尾幹事長説明

横尾幹事長説明

横尾幹事長説明

二、報告事項

- ・現役の活動状況報告

諏訪本監督報告

12:30 総 会
前会長挨拶 天野 俣明
新会長挨拶 鈴木 正彦
幹事会報告
乾 杯
歓 談

写真撮影
部歌斉唱
校歌斉唱

14:30 閉 会



天野前会長(左)から
鈴木新会長にバトンタッチ

■会員：43名

157 中村 輝雄	181 新村 貞男	228 島林 順三	237 和田 有弘	339 足立 康弘	392 内田 吉成
393 植木 正子	395 中村 光史	398 小林 伸行	451 山田 洋二	455 飯村 朋園	477 天野 俣明
487 鈴木 康弘	494 木島 敏夫	495 深田 裕弘	501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	527 池田 陽一
532 鈴木 正彦	549 三嶋 保郎	558 奥倉 勇一	597 大洞 聰	614 石井 克太	627 和田 満
661 大賀 徹雄	683 横手 一男	705 杉山 裕	717 住田 孔一	728 横尾 廣志	751 諏訪本充弘
764 高橋 寿子	775 小田野義之	792 柳川 俊泰	795 濱田 稔	835 猪狩 稔	838 龍 君江
871 平田 正博	879 井上 稔也	897 山下 仁志	1006 安部 好洋	1106 前田 裕司	1115 上原 誠
2120 鈴木 元典					



なため会 組織 (平成27年4月～平成28年3月)

■役 員	会 長	鈴木 正彦(532)		
	副会長	奥倉 勇一(558)	大賀 徹雄(661)	
	幹事長	横尾 廣志(728)		
	副幹事長	小田野義之(775)		
	監 事	前田 芳弘(501)	池田 陽一(527)	
	駿台体育会理事	奥倉 勇一(558)	諏訪本充弘(751)	
	参 与	奥倉 勇一(558)	横手 一男(683)	濱田 稔(795)
	監 督	諏訪本充弘(751)		
	コーチ	井上 堅一(1064)	尾崎 剛史(1174)	杉山 文啓(1226)
		香澤 裕子(1258)	安田 光輝(1264)	諏訪部貴亮(1282)

■部 会	総務部	(部長)小田野義之(775)	(副)原田 博文(788)	(副)平田 正博(871)
		(副)日暮 浩美(915)	(副)松井 法一(974)	
	財務部	(部長)柳川 俊泰(792)	(副)上原 誠(1115)	
	広報推進部	(部長)井上 稔也(879)	(副)住田 孔一(717)	(副)加藤 章一(845)
		鈴木 康弘(487)	一色 雅男(570)	池上 勝彦(601)
		石井 克太(614)	猪狩 稔(835)	日暮 浩美(915)
	企画振興部	(部長)濱田 稔(795)	(副)丸山 貞二(859)	奥倉 勇一(558)
		大賀 徹雄(661)	平田 正博(871)	山下 仁志(897)
		井上 堅一(1064)		
	山小屋管理部	(部長)杉山 裕(705)	(副)植木 進(846)	(副)唐川 拓三(850)
		小田野義之(775)	山口 直樹(1017)	
	事業運営部	(部長)猪狩 稔(835)	(副)安部 好洋(1006)	

■ブロック世話人		◎は正、○は副			
第1	◎飯村 朋圀(455)	○篠崎 徳量(241)	○吉田 修(345)	○内田 吉成(392)	
(S14-37卒)	○中山 光史(395)	○紀井辰之助(423)	○鹿嶋信太郎(468)		
第2	◎池田 陽一(527)	○前田 芳弘(501)	○松本 栄作(566)	○秋元 道別(594)	
(S38-43卒)	○和田 満(627)	○大賀 徹雄(661)			
第3	◎杉山 裕(705)	○野島 一雄(676)	○住田 孔一(717)	○横尾 廣志(728)	
(S44-51卒)	○柳川 俊泰(792)				
第4	◎丸山 貞二(859)	○和賀井英雄(817)	○龍 君江(838)	○加藤 章一(845)	
(S52-58卒)	○唐川 拓三(850)	○遠山 高広(858)	○井上 稔也(879)	○山下 仁志(897)	
第5	◎松井 法一(974)	○池本 直人(956)	○成田 幸治(976)	○井上 堅一(1064)	
(S59-H5卒)	○大村 研(1086)	○上原 誠(1115)			
第6	◎中村 央(1156)	○中村 宏之(1196)	○藤代 達也(1202)		
(H6-25卒)					

■顧問	杉浦 忠夫(600)	坂本 清(700)	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)
■部長	長峰 章(1000)			
■相談役	新村 貞男(181)	小林 碧(197)	島林 順三(228)	和田 有弘(237)
	篠崎 徳量(241)	大内 善一(299)	西村 幸一(313)	足立 康弘(339)
	吉田 修(345)	内田 吉成(392)	紀伊辰之助(423)	鹿嶋信太郎(468)
	天野 俣明(477)			

平成26年度 なため会決算報告
(自26.4.1 至27.3.31) 財 務 部

1. 会計報告

●一般会計		
収入の部		
前年度繰越金	予 算 額	決 算 額
	6,473,441	6,473,441
なため会費	1,650,000	1,428,000
利息収入	10,000	785
諸収入	80,000	95,856
合 計	8,213,441	7,998,082
支出の部		
【活動費】		
(総務部)		
会議案内通信費	100,000	46,887
薫風運送費	170,000	169,462
慶弔費	70,000	41,510
事務用品費	35,000	42,118
名刺作成費	10,000	2,300
明大スポーツ新聞購入費	10,000	10,486
住所不明調査費	5,000	0
(財務部)		
会費集金手数料	50,000	44,738
(広報推進部)		
薫風制作費	190,000	139,212
薫風制作通信費	10,000	0
(企画振興部)		
なため会ワンデルングマネージ交通費	20,000	6,886
(山小屋管理部)		
奥鬼怒山荘ワーク参加者補助費	40,000	103,413
(情報管理部)		
ホームページ維持管理費	10,000	10,216
プロバイダー更新費	0	3,477
ホームページ改定費	50,000	0
(事業運営部)		
会場使用料	160,000	155,196
印刷代	5,000	0
親睦旅行会マネージ交通費	20,000	17,200
会費納入推進費	65,000	0
映像機材購入費	100,000	82,539
【補助費】		
現役懇親会参加補助費	100,000	90,000
コーチ助成金	150,000	30,432
【渉外費】		
駿台体育会会費	100,000	115,000
歓送迎会御祝金	30,000	30,000
【その他費用】		
バックル製作費	0	0
お見舞金	0	0
なため会旗	0	0
会員名簿製作費	0	0
【予備費】		
	100,000	35,560
支出合計	1,600,000	1,176,632
収支差額	6,613,441	6,821,450
会費内訳		
年会費	3,000	3,000
口数	550	476
合計	1,650,000	1,428,000
次年度繰越金	6,613,441	6,821,450
OB基金	4,831,000	4,831,000
総 資 産	10,533,256	11,652,450
●なため会総資産		
普通預金		3,114,245 (郵貯)
普通預金		907,205 (三菱東京UFJ銀行)
定額貯金		7,631,000
現 金		0
合 計		11,652,450

上記の通り報告致します。 財務部 柳川俊泰 (792)
上原 誠 (1115)

2. 監査報告

平成26年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

監 事 前田芳弘 (501) 池田陽一 (527)

平成26年度事業報告

1 重点目標

- 1 会員サービスの向上
- 2 現役交流の推進
- 3 財政健全化の推進 (会費納入の強化)

2 活動報告

- 1 H26・4・8(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 2 H26・4・23(水) 駿台体育会第1回理事会 (アガミ・コモン2F)
- 3 H26・5・1(木) 2013年度会計監査 (アミ)
- 4 H26・5・13(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 5 H26・5・24(土) 幹事会・総会 (リバティタワー23F)
- 6 H26・5・31(土) 第50回なため会W
(箱根(神山、駒ヶ岳))
- 7 H26・6・6(金)～6・8(日)
奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 8 H26・6・10(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 9 H26・6・18(水) 駿台体育会総会 (リバティタワー23F)
- 10 H26・7・8(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 11 H26・7・26(土) 薫風49号・会費納入のお願い発送
(体育記念室)
- 12 H26・8・30(土) 第51回なため会W (乾徳山)
- 13 H26・9・9(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 14 H26・10・7(火) 駿台体育会第2回理事会 (大学会館3F)
- 15 H26・10・14(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 16 H26・10・20(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会
(久能カントリークラブ)
- 17 H26・10・25(土)～26(日)
第52回なため会W・親睦旅行会
(赤城山・音羽倶楽部)
- 18 H26・11・11(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 19 H26・12・3(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会
(リバティタワー23F)
- 20 H26・12・9(火) 幹事会・忘年会 (リバティタワー23F)
- 21 H27・1・13(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 22 H27・1・24(土) 薫風50号・会費納入のご案内発送
(体育記念室)
- 23 H27・1・24(土)～25(日)
駿台体育会と体育会監督会との
合同研修会 (箱根湯本ホテルおかだ)
- 24 H27・1・31(土) 第53回なため会W (丹沢大山)
- 25 H27・2・10(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 26 H27・3・7(土) 平成26年度卒業生歓送迎会
(リバティタワー23F)
- 27 H27・3・10(火) 運営委員会 (体育記念室)

平成27年度 なため会予算
(自 27.4.1 至 28.3.31) 事業運営部

1. 一般会計

収入の部		
前年度繰越金	6,821,450	
なため会費	1,650,000	3,000×550口
利息収入	1,000	
諸収入	80,000	
合 計	8,552,450	

支出の部

【活動費】 (総務部)		
会議案内通信費	50,000	
薫風運送費	170,000	薫風に関わる運送費(6、1月)
慶弔費	50,000	
事務用品費	10,000	
名刺作成費	10,000	
明大スポーツ新聞購入費	10,000	薫風同封(5,000円×2)
住所不明調査費	5,000	
会費納入維持推進費	65,000	会費未納者の振り起こしにかかる費用(主に郵送代) 80円×400名×2回
(財務部)		
会費集金手数料	50,000	
(広報推進部)		
薫風制作費	190,000	20ページ(95,000円)×2(6、6月)、@4750円/ページ
薫風制作通信費	10,000	
ホームページ維持管理費	10,000	
プロバイダー更新費	0	2012年度に36ヶ月分支払済み
ホームページ改定費	50,000	
(企画振興部)		
なため会ワンデルングマネージ交通費	20,000	
(山小屋管理部)		
奥鬼怒山荘ワーク参加者補助費	40,000	小屋代1,000円×2泊×15、入浴300円×15、プロバン1泊2,000円×2日、手土産2,000円
(事業運営部)		
会場使用料	105,000	幹事会・総会、歓送迎会 会場使用料：51,300×2回 幹事会等の資料印刷代 今年度は親睦旅行会開催せず
印刷代	5,000	
親睦旅行会マネージ交通費	0	
映像機材購入費	0	
【補助費】		
懇親会現役参加補助費	100,000	会員総会、忘年会参加補助
コーチ助成金	150,000	
駿台カレンダー購入費	108,000	1,080円×100部
【渉外費】		
駿台体育会費	115,000	駿台体育会理事の参加活動費
歓送迎会御祝金	30,000	
歓送迎会卒業生会費	42,000	6,000円×7名
【その他費用】		
会員名簿製作費	0	単年度の支出
MWV創部80周年記念事業費	2,500,000	5年に1回の改訂(次回は2017年度)
【予備費】	100,000	
支出合計	3,995,000	
収支差額	4,557,450	
次年度繰越金	4,557,450	
OB基金	4,831,000	
総 資 産	9,388,450	

2. OB基金

廉隅家・鈴木家・柴田家寄付金	1,083,000
山小屋募金他	3,257,000
校友会館(紫紺館)建設基金	491,000
	4,831,000

平成27年度事業計画

1. 重点目標

会員サービスの向上
現役交流の推進
財政の健全化(会費納入の強化)

2. 活動計画

- 4月15日(水) 運営委員会(体育記念室)
- 4月22日(水) 駿台体育会第1回理事会(7階ミコン)
- 4月28日(火) 2014年度会計監査(アミ)
- 4月29日(水) MWV創部80周年記念
奥武蔵 物見山W(奥武蔵 物見山)
- 5月12日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 5月17日(日) 幹事会・総会(OB会設立60周年)
(リパティタワー)
- 5月23日(土) 第54回なため会W(妙義山)
- 6月5～6月7日 奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 6月9日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 6月17日(水) 駿台体育会総会(リパティタワー)
- 6月27日(土) 薫風51号・会費納入のお願い発送
(体育記念室)
- 7月14日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 8月29日(土) 第55回なため会W
(オールなため会ワンデルング)(谷川岳)
- 9月9日(水) 運営委員会(体育記念室)
- 10月13日(火) 駿台体育会第2回理事会(7階ミコン)
- 10月13日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月(予定) 駿台体育会親善ゴルフ大会
(場所は未定)
- 11月10日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 11月28日(土) 創部80周年記念式典(リパティタワー)
- 12月2日(水) 大学役職者と駿台体育会
との懇親会(リパティタワー)
- 1月12日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 1月23日(土) 薫風52号・会費納入のご案内発送
(体育記念室)
- 1月30～31日 駿台体育会と体育会監督会との
(土・日) 合同研修会(場所は未定)
- 2月6日(土) 第56回なため会W(三浦半島)
- 2月9日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 3月5日(土) 平成27年度卒業生歓送迎会
(リパティタワー)
- 3月15日(火) 運営委員会(体育記念室)

■なため会 規約改訂について

1. 情報管理部を廃止して広報推進部に統合する第13条(部)の3及びなため会組織の「情報管理部」を削除

2. 当会の設立期日を運営細則に加筆第3条(設立期日)
当会の設立は1955年(昭和30年)1月24日である。

OB会(なため会)発足60周年

事業運営部 BN 1006 安部 好洋

1928年(昭和3年)春日井薫先生が創られた「駿河台あるこう会」を前身として、1936年(昭和11年)2月21日「明治大学ワンダーフォーゲル部」に改組・改名されて今がある。

学生時代には鈴木善次郎監督が反復するように私たちに言葉で伝えてくださった。春日井先生は、いつも山には「ごもり傘」を持っていらした、なんて話も。春日井先生の姿にならう先輩がいらしたほどだから、文字として残らない文化や伝統も反復して言葉で伝えていくことが大切なのだろう。

創部は春日井先生が36歳の頃のこと、その部が80年にも渡って引き継がれてきたわけだから歴史の重さを深く感じる。ちなみに、この時、鈴木監督は思春期真っただ中の14歳

の少年だ。(私が四年部員として過ごした昭和61年度は65歳でいらした)

さて、「80周年」についてはどなた様かが触れるはずなので、ここではOB会の起源についてお伝えしようと思う。

「OB会っていつから?」ということだが、昨年ひよんなきつかけから、MWVの歴史を辿って行くことになり、OB会(現なため会)の設立期日がはっきりしていないことが分かった。

そこで興味本位に私たちのルーツを探って行ったところ、当時を知る方は、若手OBとしてご尽力された小林碧先輩(現なため会相談役・1952年3月卒(昭和26年度卒))でいらつしやることが分かり、OB活動の記憶を辿っていた。

小林先輩が卒業された2年後の1954年(昭和29年)11月7日に草津白根山小屋が落成するわけだが、その頃のOB活動というのは、戦前卒業のOBと戦後卒業のOBのグループに分かれていた。

戦前グループは「山小屋建設」を目指していて、戦後グループは「ワンドルンク同好会(鈍目会)」をつくって活動していた。

1997年(平成9年)に編纂された「60年のあゆみ」には、両グループのそれぞれの活動に対する熱い思いが伝えられている。

「草津小屋」が落成した翌年の1955年(昭和30年)1月24日に春日井先生(当時54歳位)をOB会長とするOB総会が開催され

た。当時はOB総会という名称はあったものの、OB会としての組織はまだなかった。

この日のOB総会では、落成した「草津小屋」の管理運営について話し合われた。そして、念願の山小屋建設が成就したこの機会に「戦前卒OB」と「戦後卒OB」を一つに結束させることと、新たにOB会の規約を作って組織を発足させることが承認された。

小林先輩には「両グループをまとめることを決めたこの日をOB会の発足日としてはどうだろうか」というご助言をいただいた。

こうしてOB会の起源は、小林先輩のご助力をいただいた結果、毎月開催されている運営委員会を通じて幹事会(2014年12月17日開催)に提案されて承認された。

1955年(昭和30年)1月24日を起源とした「なため会」は、2015年(平成27年)1月24日に60周年を迎え、去る5月17日の会員総会でこの日を祝った。

振り返ってみると、あのととき鈴木監督が「言い忘れたけど、来年OB会は還暦なんだよなあ」って、天国でつぶやかれたのかも。

来年MWVは傘寿を迎える。

『総会、初体験!』

BN 1106 前田 裕司

私はOBになってから一度も「なため会」の行事には参加したことがありませんでした。「薫風」を拝読して登場する方々のお名前を

見ても知っている人は少なく、「関わりにくいなあ」と思っていました。しかし、1、2年前から総会や忘年会があると事前に出席者の一覧がメールで見られるようになり、その中に旧知の方々を見つけては「懐かしいなあ」と思っていました。4年前から自分で林業会社を経営するようになり、それまであまり関わってこなかった集まりにも最近では「営業の一環」と考え、顔を出させてもらっており、す。懐かしさにこのような不純な動機も加わり更に、今回の出席者の中に現役時代にコーチとしてお世話になった横手さん、浜田さんのお名前、更に一級下の上原の名前を見つけて「出席しよう」と決断しました。卒業以来、23年ぶりのことですので、正に「決断」でした。

総会当日、会場である御茶ノ水のリバーテータワーに行つてびっくり。現役時代、公式トレーニングの雨天メニューで階段を昇り降りした本館が異次元空間に様変わりしているではありませんか。「雨の公式トレは一体どこでやっているのだろう」等と余計なことを考えながら23階行きのエレベーターに乗りました。受付に行つてまたびっくり、「前田さんですね。」（後で猪狩さんと判明）と言われて「初めて来たのに何で自分の名前が分かったのだろう？」と不思議に思いましたが、見慣れない顔は自分だけなんだなあと妙に納得しました。

総会と聞くと整然と机が並べられているというイメージですが、こちらでは円形の会場

の壁に沿って椅子が並び中央にテーブルが置かれ、ちよつと雰囲気は違います。現役時代の角張った所がなくなり、顔つきも物腰もやや丸くなった上原を見つけ再会を喜んだと同時に「知っている人がいてよかったあ」と安心しました。上原はなため会には「馴染んで、いるらしく続々と会場に入られる先輩方を「こちらが〇〇さんです。」と教えてもらい「上原もすっかり遅しくなったなあ」と感心しました。

円滑に議事が進み総会が始まりました。中央のテーブルに料理や飲み物が並べられビールで乾杯したものの、この後帰宅するのに車の運転をしなければならぬのと安部さんから「前田君、3分間あげるから何か喋つて」との有難いお言葉を頂戴したのと思いつきビールを飲むことはできませんでした。歓談中にも上原に先輩方を紹介してもらい名刺をお渡しすることができました。あんなにお世話になった横手・浜田両コーチも自分では見つけられず（すみません）、上原に教えてもらう有様でした。しかし、両コーチは印象の薄かったはずの自分のことを覚えていてくださり、自分が恥かしくなりました。たくさんの先輩方とお話しさせてもらいましたが、以前から知っているように話やすく「やっぱりワンゲルっていいなあ」としみじみ思った総会でした。現役はたったの4年間、しかし、なため会の会員としてはもつと長い時間があり、多くの先輩や後輩と知り合えるので

すからもつと楽しむべきだと思いました。

『仕事の紹介』

林業と聞くと山にある木を伐つて運び出すという仕事を想像されると思いますが、弊社ではその他に建物の側などで大きくなり過ぎた木を伐つたり、枝を切り詰めたりする仕事もしております。クレーン等の重機が入れない所でもロープを使って木に登り少しずつ枝を伐つて降ろします。また、丹沢湖畔（神奈川県）ではバンガロー（世附川ロッジ）も運



営しております。近くにはハイキングに手頃な山もあり、石窯ではピザやパンも作れます。150名の収容能力がありますので、団体様の貸切も承ります。お問合せ・ご予約はお気軽に0465-78-3636までお電話ください。美味しいコーヒーを淹れてお待ちしております。(写真は世附川ロッジです)

■連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、下記の総務部アドレス宛にメールで送信していただくか、または直接下記担当者まで連絡願います。

総務部アドレス: sounmu@natameikai.org

総務部 松井 法一 (974)

住所: 〒120-0043 足立区千住宮元町13-2

電話: 03-5829-8077 (090-8649-0849)

メール: shu-ken@mtd.biglobe.ne.jp

訃報

BN 750 佐竹秀城 O B が平成26年7月21日にご逝去されました。

BN 617 折戸 晃 O B が平成26年8月23日にご逝去されました。

BN 645 中川哲男 O B が平成27年5月11日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

なため会 60 周年 祝還暦 おめでとうございます。



昭和 39 年度卒業 山久会

祝 なため会 60周年 昭和38年度卒業 辰巳午の会



(後列) 木島 本郷 沢井 鈴木 中田 山田さん 深田 樋口 松岡 浅野 野口 平山 前田 長島

(前列) 野村 木島夫人 西村 高橋 森谷 後藤 椎橋夫人 長島夫人 沢井夫人 椎橋

平成27年2月19日(木) 於: ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

編集後記

BN 717 住田 孔一

いつものように関東地方も梅雨入り、天気予報に注意深く耳を傾け、雨の合間にやらねばいけない農作業や植木の剪定など自然が相手だと予め決められた行動で、アジサイに囲まれた平穏な一日となる。

今年は戦後七十年、区切りの年の談話をどのようにするのか、世間は議論に忙しい。水と安全は空気のように有るのではなく、しっかりと守らねば維持ができない。

我がワンダーフォゲル部も、戦後より更にさかのぼる昭和十一年二月二十一日に発会した。五日後には二二六事件が起きた年であった。岩手県水沢市にある齋藤實記念館には、襲撃され弾痕で螺旋状にひび割れた鏡や貫通した血染めの綿入れが記憶に新しい。

創部以来、戦中・戦後の混乱した時代を乗り越へ、八十年の今日があるのは先輩・後輩諸兄が、その時代時代にしっかりと向き合った賜物ではないかと考えます。

今年一年、夏にはオールなため会Wや秋には薫風特集号、八十年記念式典が計画されています。

MWVの皆さん！祝賀行事に積極的に参加しようではありませんか。MWVよ永遠に！

発行日 平成二十七年六月

編集 鈴木康弘 一色雅男 池上勝彦
石井克太 住田孔一 猪狩 稔

加藤章一 井上稔也 日暮浩美

発行者 明治大学体育会

ワンダーフォゲル部なため会

印刷所 三協印刷株式会社